

私を変えた日本人の考え方

臧 云飞 (ザン ウンヒ)

10月21日

私はざんと申します、出身は中国東北の吉林省です。3年前に、日本へ留学に来ました。研究の情熱を感じ、日本社会の雰囲気を理解したいため、私は日本に参りました。私は京都に一年住んだことがあり、何人かの関西と関東の日本人と連絡することで、日本全体のだいたいの雰囲気がよく理解できました。

最初に、研究室のことについて感想を述べます。私の研究室は非常に調和のとれた学習環境です。常にグループの会議で論じた提案について、考えに考えたのち、実験することを決定します。中国では、ただ理論の先進性を見つけると、大体導入して応用します。優先順位は過程より、結果がもっと重視されています。それに比べて、逆に日本人にとってのプロセスの重要性を感じさせられました。そのため、これらの考え方は今後の研究に影響します。

京都にいるときの日本人の友達に、黒川さんという方がいます。暇なとき彼と一緒に世間話をしていました。彼は音楽好きで、ピアノが得意です。その上、中国語とフランス語を毎日学習しています。彼は自分の興味に対して、情熱を持って積極的に毎日頑張っています。彼の情熱のようなものも深く私に触れているのです。中国の多くの方が、夢と現実の距離を考慮して、ときとき根気を欠乏しています。日本人の人は自分の好きなもののために、どんな努力も惜しくないと感じられました。

横浜の高橋さんと年賀状で文通しています。彼は漢字と文化交流が非常に好きです。一緒に世間話をしているときは、面白い話題を語っています。例えば日本人の考え方は「相手を思いやる」という事です。たとえば、あなたがご飯やお菓子を作って食べさせてあげると、たとえ美味しくなくても、いつも「おいしい」と答えます。なぜなら、正直に答えるとその場の雰囲気が悪くなるからです。高橋さんからたくさん知識を学びました。

中国と日本は共通することもありますし、異なることもあります。日中両国は一衣帯水の隣国ですので、日本人とコミュニケーションをとりたいと思っています。私は相互学習と相互発展が大事なことだと信じています。特に日本に来た後に、たくさん日本人の影響で、私は感動して、いろいろな幸せになって、私を変えていました。

